



愛郷無限

2014年03月11日号 NO.461

写真提供:大山市

土屋館  
どや  
だて 通信

発行者：大曲・花火通り商店街  
文責：辻

お問い合わせ：080-1265-7035  
tuck-t@akita-tsujiya.jp

## Subject：発信することの意味

現在、ドヤツーはメールで約300名、ファックスで100名の方々へ勝手に配信しています。私の知らぬところで回覧されていたり、転送されていたりするようなので、果たして何人に読んでいただいているかは正直分かりません。お好きなように読んで・使っていただいて結構です。(ただし、誰に読まれているか分からなくなってから、多少オブラートに包んで優しく書くようにはなったので善し悪しですが。) いつも夜中にせっせと書いては貯め込んでいます。

私になぜドヤツーを続けているのか？

答えは作家の五木寛之さんが講演で語っていた中世の宗教家・良寛さんの言葉に象徴されます。封建主義が厳格であった日本の中世・戦国時代に於いて、一般の農民や大衆は【物言わぬ砂のような存在】でした。下手なことを言えば命を奪われる。そんな世情の中で、和尚は各地を廻りながら、農民や大衆に対して『喋れ、喋れ、もの言わぬは恐ろしき』(もっと喋りなさい、喋らぬ奴は何考えているか分からず恐ろしい)と説いて歩いたそうです。なぜか？ 自分の意見を言わなければ、その意見が正しいかどうか判断出来ない。例え間違ったことを喋ったとしても他者からその誤りを指摘いただくことで己の未熟さも分かるのだからという教えだそうです。今から想像も出来ないほど身分制・封建制が厳格であった時代にも関わらずです。口数少なく、クドクド言わず、不言実行の方が男らしいという昔ながらの典型的な日本人の男子像もあります。現代ではその象徴である映画俳優の高倉健さんはやっぱり格好良いですね。

でも良寛和尚の教え通り、私は発信することを選びました。価値観が多様化しすぎ、個人が尊ばれるように変わってしまった現代では、阿吽の呼吸や、恥・世間体などこれまで世の常識だと言われていたことが通じなくなっており、ちゃんと伝えないと真意が伝わりにくいからです。

佐賀県武雄市の樋渡市長がインタビューで答えています。『**地方では無関心こそが最大の悪**。東京と違って田舎では火柱が立たないと話題にされない(問題を起こしたり悪事をしないと話題に登らない。逆にそんな足引っ張りできる話題ばかりが探され、批判され、面白がって張り付けにされる)。発信こそが智慧と情報を呼ぶ。発信しないリーダーはもうリーダーじゃない』

自分のブログなどに掲載した方が私の作業は楽です。しかしそれでは自分で読みに来ようとする意志と動機を持った人にしか伝わらない。インターネットに疎い高齢の方は読むことはない。だからドヤツーはこちらからファックスも含んで送り続けています。基本はあくまでプッシュアウトです。無関心が大勢を占めるような地域にならぬよう、大いに議論できる【種子】を誰かが植えねばならないと思っています。

但しご迷惑な場合は全く気にせずにお知らせ下さい。実際、ファックスのインクリボンは高価なのでもったいないから送ってくるな！とお叱りを受けた方もいますので(笑)。